

作成年月日	平成 28 年 10 月 17 日
作成部局 課室名	産業労働部国際局 国際交流課

金澤副知事の海外出張（フランス共和国）

アンドル・エ・ロワール県トゥール市で開催された「第 5 回日仏自治体交流会議」に金澤副知事が参加し、兵庫県の PR を行うとともに、日仏自治体共通の課題につき議論し、友好交流先のアヴェロン県をはじめ、関係自治体等と交流を深めた。

また、この機に、本年、友好交流 25 周年を迎えたアンドル・エ・ロワール県及びセーヌ・エ・マルヌ県を訪問し、これら友好交流県との交流推進を行うとともに、神戸日仏協会とサンシール・シュール・ロワール日友好協会との交流推進に関する協定書の締結式に参加した。

さらに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に際し、仏柔道選手団による国内事前合宿の本県への誘致、また、本県に進出する仏企業のエアバス・ヘリコプターズ社の工場訪問等を行った。

今回の訪仏は、フランス 4 県と友好交流（全国最多）を行う自治体である兵庫県として、フランスとの経済、教育、芸術文化、観光などさまざまな分野での交流を一層促進するものとなった。

記

- 1. 期 間** 平成 28 年 10 月 4 日（火）～10 月 10 日（月・祝）
- 2. 訪問地** フランス共和国 アンドル・エ・ロワール県（トゥール市、サンシール・シュール・ロワール市）、パリ市、バニユー市、セーヌ・エ・マルヌ県（フォンテーヌブロー市）

3. 主な内容

（1）第 5 回日仏自治体交流会議への出席

- 日 時：平成 28 年 10 月 5 日（水）～6 日（木）
- 場 所：トゥール市ヴァンシー国際会議場
- 参加者：約 170 名

【フランス側】3 州、2 県、1 トゥール、14 市

オクシタニー州、オーベルニュ・ローヌ・アルプ州、サントル・ヴァル・ド・ロワール州、アヴェロン県、ヴァルドワーズ県、ナント・メトロポール、トゥール市、マラコフ市、ルマン市、オルレアン市、ボルドー市、エクサンプロヴァンス市、ナンシー市、コンピエーニュ市、ペサック市、オータン市、シャルトル市、イッシー・レ・ムリノー市、レンヌ市、バンタン市の各代表

【日本側】1県、18市

兵庫県…金澤和夫副知事、水口典久国際局長、横川太パリ事務所長、安福幸雄
神戸日仏協会会長

神戸市…久元喜造市長、山村昭国際部長、池田りんたろう市議会議長

豊岡市…真野毅副市長

仙台市、白河市、富岡市、市川市、横浜市、新潟市、金沢市、甲州市、高山市、静岡市、彦根市、桜井市、広島市、高松市、熊本市、鹿児島市の各代表

○内 容：

10月5日から6日に、アンドル・エ・ロワール県トゥール市で開催された第5回日仏自治体交流会議（自治体国際化協会とフランス都市連合の共催）に出席し、「イノベーション～経済的ダイナミズムと国際的な輝きを日仏自治体にもたらずイノベーション～」をテーマに、全体会、分科会（①経済・産業・観光、②文化、③都市開発）により議論を行った。（別添資料1）

【10月5日】

(1)開会式（9時～10時45分）

フランス側推進委員長の**セルジュ・ババリー トゥール市長**からは「今回、トゥール市で第5回日仏自治体交流会議を開催し、日仏友好関係のさらなる強化に貢献できることを名誉に感じている。イノベーションという多様性のある広範なテーマに基づき、経済・産業・観光、文化、都市開発の3分野について、実りのある意見交換を行いたい」と、また、日本側推進委員長の**大西秀人高松市長**からは、「今回の議論の中心となるイノベーションは、まさに今、地域の活性化のために求められているテーマである」と挨拶された。

来賓として、**木寺昌人駐仏日本国特命全権大使**からは「2者間の交流ではなく、こうして一堂に会して共通課題である3分野について議論することは地域政策を進める上で大切なことであり、その成果を期待している」こと、また、**ベルトラン・フォール外務・国際開発省地方自治体対外行動局長**からは「フランスの地方自治体制度の構造改革が行われており、市民のために、どのように国際戦略に取り組むべきかという考え方が必要である」と挨拶された。



【ババリー トゥール市長挨拶】



【木寺駐仏日本国大使挨拶】



【会場全景】



【各自治体代表記念撮影】

(2) 全体会 (10時45分から12時)

日仏の自治体を代表して、最初に**金澤副知事**から「兵庫県とフランスの国際交流と次世代産業戦略」をテーマに、「兵庫県は4つのフランスの自治体と交流を行い、また、パリにヨーロッパ拠点としての事務所を設置する唯一の自治体である。今回の会議のテーマであるイノベーションの本県の取り組みとしては、次世代産業として、航空・宇宙、ロボット、次世代エネルギー、医療機器の4分野を設定し、その成長に向けて、大型放射光施設やスーパーコンピューターなどの研究基盤や企業支援の充実を図るとともに、41大学の集積による人材養成などに注力している」ことについて報告を行った。**(別添資料4)**

また、友好交流県のアヴェロン県の**ベルナール・ソール県議会副議長**からは「アンリ・ファブルをテーマとした研究交流、柔道交流、芸術・文化交流など、これまで兵庫県と共通する課題について、共同で取り組んできており、とても素晴らしいことである。フランスの自治体は構造改革の中で難しい時期にあるが、今後とも兵庫県との交流を大切にして国際交流を進めていきたい」との報告が行われた。

このほか、フランス都市連合、自治体国際化協会、富岡市、ナンシー市、トゥール大学から、それぞれ日仏の交流活動について報告があった。



【全体会での金澤副知事の報告】



【アヴェロン県ソール副議長の報告】

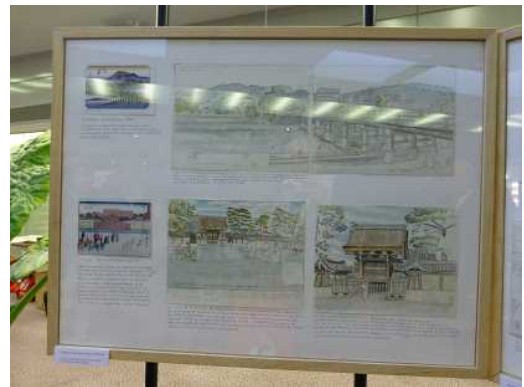
(3) フィリップ・ドロール特別展「東海道を行く」オープニングセレモニー（12時～12時30分）

歌川広重の「東海道五十三次」の浮世絵に魅せられ、広重の絵の景色を求めてスクーターで移動しながら、広重の絵に描かれた同じ場所で現在の風物の絵を描いているトゥール市の水彩画家、フィリップ・ドロールさんの展覧会のオープニングセレモニーが、関連イベントとして会場内で行われた。

ドロール氏は、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会のメンバーでもあり、神戸での展覧会の開催について、神戸日仏協会の安福会長と相談をされている。



【ドロール氏（左から3人目）挨拶】



【展覧会の模様】

(4) 分科会（14時～16時30分）

午後の分科会では、金澤副知事は第1分科会【経済・産業・観光】に参加し、神戸市の**久元市長**から「Why choose KOBE?」をテーマに、「阪神淡路大震災以降、医療産業クラスターの構築を目指した「神戸医療産業都市構想」を進めており、現在、323企業・団体、8,100人の研究者・雇用者が集積していること、WHO神戸センターと連携して共同研究を行っている」ことなど、医療産業をテーマとした産業政策について報告が行われた。また、日本側からは静岡市、甲州市から、フランス側からは、トゥール市、ヴァルドワーズ県、オクシタニー州、マラコフ市から、姉妹都市との交流や経済・産業・観光の取り組みについて報告を行い、意見交換を行った。

また、第2分科会【文化】には、豊岡市の**真野副市長**が参加して、「近畿最古の芝居小屋の復元や城崎温泉の世界に向けた情報発信など、伝統文化を守り、育て、未来に引き継ぐ、小さな世界都市を目指す豊岡市の取り組み」について報告を行った。

なお、神戸市の久元市長は、今回の訪仏にあたって、マルセイユ市との姉妹都市提携 55 周年記念行事に参加、また、豊岡市の真野副市長は、ヴィレール・シュル・メール市との観光振興をテーマに関する会議に出席するなど、この会議への参加のほか独自のフランス自治体との交流活動を行なった。



【第 1 分科会に参加する金澤副知事】



【第 1 分科会の模様】

【10 月 6 日】

(1) 分科会報告 (9 時 30 分～10 時 30 分)

3つの分科会のフランス側、日本側のそれぞれの座長から分科会について報告が行われた。第 1 分科会の経済・産業・観光分野については、トゥール市長、静岡市長、第 2 分科会の文化分野については、ナンシー市助役、高松市長、第 3 分科会の都市開発分野については、シャルトル市、白河市長からそれぞれの分科会で討議された内容について説明があった。(別添資料 2)

(2) 閉会式 (10 時 30 分～11 時)

① 総括

ババリー フランス側推進委員長からは「フランスと日本は距離的には遠く離れているが、仏日の伝統文化の深さがあり、お互いの友情、信頼により、困難の時でも仲間として連携することができる。今回の会議をトゥール市で開催できて誇りに思う」と、また、大西日本側推進委員長からは「今回のノーベル賞で、日仏の研究者が受賞したが、両国間の自治体交流を通して、技術だけでなくさまざまな分野でイノベーションへの取り組みが行われており、地域の活性化に重要な役割を果たしている」と総括された。

また、来賓のティエリー・ダナ駐日フランス大使から「この仏日自治体会議は重要な取り組みである。これまで、フランスと日本の交流は、外交官など国を中心に行われていたが、現在は、大学、企業、若者などによって担われており、そうした中で自治体の役割が重要になって来ている。安倍首相とバルス首相は、2015 年から 2016 年を日本フランスイノベーション年として位置づけ、両国でイノベーションに関する様々なイベントを展開しており、その総括として今年 12 月に大阪で日仏イノベーションに関するイベントを開催するので是非参加ください」と挨拶された。



【ダナ駐日フランス大使】



【ババリー市長】



【大西高松市長】

②最終宣言

第5回日仏自治体交流会議の議論を取りまとめて、**フォール フランス外務・国際開発省地方自治体対外行動局長**から「今回の会議を経て参加者は、イノベーションをテーマに、経済・産業・観光、文化、都市開発の様々な地方政府の現状と視点を再び共有し突き合わせる機会となり、地方自治体交流の成果を新たに実感した。トゥール会議の開催は、日仏交流・友好の促進に大きく貢献した。この視点に立って、我々は、日仏自治体交流会議推進委員会を継続することにより、より緊密な協力を維持することを決意する。2018年に第6回会議を熊本市で開催することで、この実りの多い交流を再現することで合意する」という最終宣言が発表された。

（別添資料2）



【最終宣言を発表するフォール事務局長】

③第6回日仏自治体交流会議（2018年）の開催地発表

2018年の第6回日仏自治体交流会議の開催地に決定した熊本市の大西一史市長から「熊本市の概要と新たなまちづくり」について、説明があった。

今年の4月の熊本地震により、熊本城をはじめ大きな被害を受けたが、姉妹都市のエクサンプロヴァン市と同様に、上質な生活都市に向けて、震災からの復旧・復興を行い、日仏交流160周年を迎える2018年の同会議の開催を成功させたいとの決意が表明された。



【概要等説明を行う熊本市の大西市長】

(2) 友好交流県等との交流促進

① 友好交流県アンドル・エ・ロワール県との交流協議

○日 時：平成 28 年 10 月 5 日（水）17:30～18:40

○場 所：アンドル・エ・ロワール県庁舎

○参加者：

【アンドル・エ・ロワール県側】

ファブリス・ボワガール副議長、エティエヌ・マートグット県議会議員、ロメイン・ミマウルト-ラボウテ官房長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長、安福幸雄神戸日仏協会会長

○内 容：

アンドル・エ・ロワール県とは、1991 年 4 月、甲南学園のフランス校として「フランス甲南学園トゥレーヌ（トゥレーヌ甲南）」が開校したことをきっかけに、経済交流などの交流を行ってきた。同校は、2013 年 2 月に閉校となったが、その後、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会が設立され、今回、神戸日仏協会との交流の推進に関する協定書を締結することとなり、同県との交流 25 周年にもあたることから、安福神戸日仏協会会長とともに、同県を訪問した。

サンシール市の第一助役でもある**ボワガール副議長**からは「トゥレーヌ甲南がサンシールを選んでもらってとてもありがたく思っていた。妻が看護師の関係もあり、同校で勤務していた看護師さんに私の自宅で 3 年間ホームステイしていただいた。現在は連絡が取れなくなっているが、日本を訪問したことがないので、この方を訪ねて日本に行きたいと思っている。また、兵庫県との交流は、これまでの政権の方向性もあり、最近はあまり活発には行われて来なかったが、今後は観光などの交流を積極的に進めて行きたい。特に、マートグット県議会議員が観光振興公社の代表としても担当する観光分野は、本県にとって重要な産業であり、古城、ワインなど観光資源も豊富であり、日本からの観光客に是非多く来てほしい」と話された。

金澤副知事からは「兵庫県とアンドル・エ・ロワール県との交流は、近年、トゥレーヌ甲南の活動に限定されていたのが実情であるが、本県は日本の自治体として唯一パリに事務所を持っており、今後は観光をはじめ他の分野にも交流を広げていきたい。今年は交流を始めて 25 周年に当たるが、次回の 30 周年では、是非、県民交流団と一緒に訪問できればと思う」と話した。

安福会長からは「トゥレーヌ甲南の活動には、設立から一番長く関わってきており、理事長もしていた。ボワガール副議長のご自宅に3年間ホームステイさせていただいた看護師の方はすぐに調べてご報告したい。トゥレーヌ甲南が閉校になったことは、たいへん残念なことであったが、明日、神戸日仏協会とサンシール・シュール・ロワール日友好協会の交流提携によって、両地域の子供たちのホームステイなどの交流を今後行っていきたい」と話された。



【ボワガール副議長との交流協議】

【ボワガール副議長と金澤副知事、安福会長】

②友好交流県アヴェロン県との交流協議

○日 時：平成 28 年 10 月 5 日（水）12:30～14:00

○場 所：日仏自治体交流会議会場

○参加者：

【アヴェロン県側】

ベルナル・ソール県議会副議長、マチュー・ダノン プロジェクトマネージャー

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長、真野豊岡市副市長

○内 容：

今回の会議に出席されたアヴェロン県のソール副議長と両地域の交流について協議を行った。

ソール副議長からは「兵庫県との交流は、会議でも説明したように、アヴェロン県にとって大切な国際交流となっている。昨年の7月の井戸知事のアヴェロン県来県時に、兵庫県立美術館の蓑館長とともに、スーラージュ美術館を訪問いただいた。同県のロデーズ出身の近代画家ピエール・スーラージュ氏の兵庫県立美術館での開催について相談したところだが、それと同じタイミングで、兵庫県立美術館が所蔵する「具体美術」の作品展をスーラージュ美術館で開催できないかと考えている。スーラージュ美術館は近代芸術にふさわしい建築の美術館である」との発言があった。

金澤副知事から「ソール副議長から提案のあったスーラージュ展と具体美術展が相互に両県の美術館で開催できるよう兵庫県立美術館と相談したい」と答え、今後、こうした芸術分野での両地域の相互交流を促進していくことを確認した。

また、今年の8月には、豊岡市の中貝宗治市長が、アヴェロン県で「水」をテー

マとして開催された総合文化イベントに参加し、日本人の生活に溶け込んだ水との親しみの観点から温泉文化として城崎温泉を紹介している。



【ソール副議長と金澤副知事】

③友好交流県セヌ・エ・マルヌ県との交流協議

○日 時：平成 28 年 10 月 7 日（金）16:00～20:00

○場 所：フォンテーヌブロー城

○参加者：

【セヌ・エ・マルヌ県側】

パトリック・セプティエ副議長、ジェネビエーブ・セール副議長、マルティヌ・バロー副議長、フランソワ・グザビエ・ドゥフルー経済振興公社事務局長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

セヌ・エ・マルヌ県と本県と交流は、1991 年から人物交流事業を行うなど、継続した交流を行っている。友好交流 25 周年を機に、同県を訪問し、3 名の副議長と今後の交流に向けた協議を行った。

青少年教育を担当する**セール副議長**からは「青少年はアニメをはじめ日本への興味が深い。若い頃からの国際教育は今後の成長に大切な要素であり、是非、兵庫県の青少年との交流を進めて行きたい。セヌ・エ・マルヌ県として、何ができるか検討してご連絡したい」、また、スポーツを担当する**バロー副議長**からは「兵庫県とスポーツを通じた新たな交流ができないか」との提案があった。

金澤副知事からは「今回、世界遺産のフォンテーヌブロー城において、交流の場を設定いただき光栄である。両県の交流を積極的に支援いただいているバルボー議長をはじめ、セヌ・エ・マルヌ県の皆様方に深く感謝申し上げます。兵庫県とセヌ・エ・マルヌ県とは、25 年に渡って友好訪問団や経済交流団の派遣を重ねてきたほか、特に、兵庫県からの日仏交流コーディネーターの派遣、また、セヌ・エ・マルヌ県からの企業研修生の派遣を 1991 年から継続して実施してきており、セール副議長から提案のあった青少年の国際交流も有益なものと思う。また、バロー副議長から提案のあったスポーツ交流については、関西ワールドマスタースゲームズ 2021 への参加をお願いするとともに、高齢者の健康維持のためのスポーツへの取り組みを進めており、セヌ・エ・マルヌ県と新たな交流を進めていきたい」と話した。

また、交流協議の前に、会場となった世界遺産のフォンテーヌブロー城の視察を

3名の副議長とともにいった。



【3名の副議長と金澤副知事】



【フォンテーヌブロー城】

④神戸日仏協会・サンシール・シュール・ロワール仏日協会調印式への出席

○日 時：平成28年10月6日（木）12:30～13:30

○場 所：サンシール市庁舎

○参加者：

【神戸日仏協会・サンシール・シュール・ロワール仏日協会側】

安福幸雄神戸日仏協会会長、保井円サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会会長

【アンドル・エ・ロワール県、サンシール市側】

ファブリス・ボワガール アンドル・エ・ロワール県副議長、フランシーヌ・ルマリエ サンシール・シュール・ロワール国際担当助役

【兵庫県側】

金澤副知事、久元神戸市長、池田神戸市議会議長、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

2013年のフランス甲南学園トゥレーヌ（トゥレーヌ甲南）閉校後に設立されたサンシール・シュール・ロワール仏日友好協会と神戸日仏協会の両協会間で、交流推進に関する協定書の締結が行われた。協定の内容は、①両協会は、会員が語学研修や文化探訪・観光等で訪問する場合は、ホームステイはじめ、会員の活動が円滑に進められるように便宜を図る、②両協会は、相互の文化に関する理解を深めるため、工芸作家等の芸術・文化分野の交流を促進し、その活動が円滑に進められるよう支援することなどである。

（別添資料3）

兵庫県からは金澤副知事、神戸市の久元市長、アンドル・エ・ロワール県のボワガール副議長、サンシール・シュール・ロワール市のブリアン市長代理としてルマリエ助役が立ち会った。

安福会長からは、「トゥレーヌ甲南には一番長く関わってきており、理事長も務めた。その間、ブリアン市長、ルマリエ助役、また、ホームステイなどで市民の方々にたいへんお世話になった。今後は保井会長とともに、神戸市とサンシール・シュール・ロワール市の間で草の根交流を進めて行きたい」と、また、保井会長からは、「23年間に渡り、トゥレーヌ甲南の教頭として勤務し、和太鼓グループの活動や、

同市の姉妹都市であるセネガルのクサナール市を生徒とともに訪問し学校支援を行うなど、多くの貴重な経験をさせていただいた。学校は閉校になったが、その思いは、こころネッサンスの地で、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会として生まれ変わった」と挨拶された。

金澤副知事からは、「トゥレーヌ甲南の設立がきっかけとなって、兵庫県とアンドル・エ・ロワール県との交流が始まって、今年で 25 年になる。しかし、これまで、同校の存在に安心し過ぎていて、両県の交流に広がりやを欠いていた。昨日、ボワガール副議長を訪問し、今後の両県の交流を深めていくことを確認した」と、**ボワガール副議長**からは、「皆様の努力で両協会の提携ができ、今後、兵庫県とアンドル・エ・ロワール県の新たな交流に発展していくものである」と挨拶された。

久元市長からは、「緑豊かなサンシール・シュール・ロワール市はフランスの原点としての奥行きがある。神戸も日本を代表する都市として多くの人を迎えるよう努力して行きたい」と、また、**ルマリエ助役**からは、「1991 年にトゥレーヌ甲南が生まれ、2013 年に廃校になるまで、同校を通じて、両国の文化など価値観を共有してきた。今回の両協会の協定は大きな意味を持ち、また、ブリアン市長の代理として素晴らしい瞬間に立ち会えることを誇りに思う」と挨拶された。

また、夕方には、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会会員の手作り料理による交流会がトゥレーヌ甲南の跡地にある同協会で開催された。



【金澤副知事挨拶】



【調印式】

⑤神戸北野・山本地区と交流を行うモンマルトルの丘ワイン祭への参加

○日 時：平成 28 年 10 月 8 日（土）10:00～12:00

○場 所：モンマルトルの丘

○参加者：

【モンマルトル観光協会】

シルヴィ・フレモン会長、ティエリー・シャンピオン副会長、フレデリック・ルー副会長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長、浅木隆子北野・山本地区をまもり、そだてる会会長

○内 容：

2005年から神戸市の「北野・山本地区をまもり、そだてる会」が交流を続ける「モンマルトル観光協会」が主催するワイン祭の会場をフレモン会長、チャンピオン副会長、浅木会長の案内で、灘五郷の日本酒の試飲を行う神戸市と同会のブースをはじめ、フランスの全国から集まるワイン、チーズ、ソーセージなど、地域の特産品のブースの視察を行った。

モンマルトルの丘は世界から観光客が訪れる場所であり、浅木会長の熱い思いにより、2005年に北野・山本地区との提携に結びついたものであり、その後、双方での看板の設置、相互訪問など、親密な交流が続いている。



【モンマルトル・北野提携の看板の前で】

【神戸市・同会のブース】

(3) フランス柔道連盟との面談及び柔道場見学

○日 時：①平成 28 年 10 月 7 日（金）13:00～15:00

②平成 28 年 10 月 8 日（土）17:40～18:20

○場 所：①パリ市内日本食レストラン、②パリ近郊バニユー市立柔道場

○参加者：

【①フランス柔道連盟側】

ジャン・ルック・ロジェ会長、エリック・ビヨン副会長、ジャン・クロード・セノー理事

【②柔道場視察】

マリ・エレヌ・アミアブル バニユー市長、川石則一氏（フランスの柔道の父と言われる川石酒造之助のご子息）

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

【①フランス柔道連盟】

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に際し、仏柔道選手団による本県での事前合宿招致に向けて、フランス柔道連盟のロジェ会長、ビヨン副会長等と面談を行った。ロジェ会長、ビヨン副会長は、友好提携先のアヴェロン県出身とのことであり、本県とアヴェロン県との柔道交流などを行っていることなど、フラン

ス自治体との交流、ホストタウンとして誘致を行う姫路市の魅力について説明を行った。また、リオパラリンピックの柔道では、アヴェロン県、兵庫県双方の選手が活躍するなど、明るい雰囲気で見学を行った。

ビヨン副会長は、以前、神戸を訪問されたことがあるが、ロジェ会長はなく、今年の12月に国際大会への参加のため、東京を訪問される予定であり、是非、兵庫県にお越しをいただくようご案内した。



【ロジェ会長(中央)、ビヨン副会長(左)と金澤副知事】

【②柔道場視察】

また、フランスを柔道大国に導いた「フランスの柔道の父」と言われる姫路市出身の川石酒造之助氏のご子息の川石則一さんが指導されているパリ郊外の柔道場の視察を行った。酒造之助氏は、1935年に柔道の普及のため渡仏し、苦勞をしながら、柔道の技や帯の色など、フランス人が理解をし易いように体系化した「川石メソッド」による指導を行った。

道場には、兵庫県出身の柔道の創始者である嘉納治五郎氏、そして、川石酒造之助氏の写真が飾られ、小学生たちは、川石メソッドで決められたレベルごとに異なる色帯をして、柔道の練習が行われており、川石氏、また、道場を設置するバニユー市アマブル市長と一緒に見学を行った。

川石氏は、柔道連盟の理事もされており、兵庫県での事前合宿誘致について、ロジェ会長に話をいただいているとのことであった。

今後とも、パリ事務所等を通じて、本県での事前合宿誘致に向けた取り組みを進めていく。



【練習風景】



【川石氏、アマブル市長、練習生との記念写真】

(4) 本県進出企業エアバス・ヘリコプターズ社の仏工場訪問

○日 時：平成 28 年 10 月 7 日（金）9:30～12:00

○場 所：パリ近郊 ル・ブルージュ工場（新工場）
ラ・クールヌーブ工場（旧工場）

○参加者：

【エアバス・ヘリコプターズ社側】

ルーラント・プラット所長、フィリップ・ゲゲン北アジア総括部長、オリビエ・ティエリ エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン業務本部長、フランク・デュシェネ ブレード施設部長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

兵庫県に進出しているエアバス・ヘリコプターズ社のパリ近郊にある新旧の工場を訪問して、同社の世界での事業展開の取り組みや、ブレード（羽根）の製造現場の見学を行った。同社は、2015 年の民間・官公庁市場において、世界で生産された全 627 機のうち 45%と高いシェアを占めている。同市場の用途としては、救急医療、警察、消防・海上警備、捜索救難、海上輸送、ビジネス及び自家用などである。また、川崎重工業とは、共同開発を行っている。

【ル・ブルージュ工場】

プラット所長からは「ラ・クールヌーブの工場の歴史は長く、1917 年から軍事用の飛行機を製造し、その後ヘリコプターを初めてフランスで製造した工場であるが、老朽化と手狭になったことにより、ブレードなど重要な部品の製造と営業機能をラ・クールヌーブ工場に残して、そのほかの製造部門は南フランスのマリニャヌ工場に移転した。今年 9 月 19 日からは、ラ・クールヌーブの機能も、4 キロ離れたル・ブルージュ空港に近接するル・ブルージュ工場に 6 か月かけて移転を進めている。新工場にお迎えする最初の訪問者である」と説明があった。



【プラット所長と金澤副知事】

金澤副知事からは「フランス企業として、兵庫県でがんばっていただいていることに感謝申し上げます。また、エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンのジヌー社長には、井戸知事との意見交換の会議にも参加していただいている。兵庫県はフランスの 4 つの自治体と交流を行っており、また、パリに事務所を設置する唯一の自治体として、フランスと一番縁の深い自治体であり、御社との関係を今後とも深めていきたい」と話された。

【ラ・クールヌーブ工場】

神戸空港事業所に勤務するティエリ業務本部長は、移転作業が行われているラ・クールヌーブ工場で 15 年間の勤務経験があり、同部長の案内で、ブレードの製造・修理の現場の視察を行った。渡仏前に、神戸空港事業所の視察を行ったが、整備や修理に

当たっては、技術者の手作業が多かったところ、同工場での生産工程におけるブレードの製造・修理についても同様に技術者による手作業中心に行われていた。

この理由としては、ヘリコプターは、自動車などに比べると生産台数も少なく、用途ごとに改良が必要であるなど、機械での製造も可能であるが、現在は技術者の職人技による手作業による工程がコスト、品質面で優位とのことであった。



【ラ・クールヌーブ工場内
ティエリ部長（左から2人目）】

(5) 在兵庫県人会との交流会

○日 時：平成 28 年 10 月 8 日（土）19:00～22:30

○場 所：パリ市内レストラン

○参加者：

【在兵庫県人会】

稲葉会長ほか会員 9 名

セヌ・エ・マルヌ県派遣日仏コーディネーター 大渕みどり

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

稲葉会長をはじめ、在兵庫県人会の会員と、最近のフランスと日本の動向について意見交換を行うなど、交流を行った。稲葉会長は旧出石町（現豊岡市）の出身の画家であり、会員の中には、画家や日本伝統文化の染物に関わる方もおられ、パリ事務所での展覧会を行うなど、芸術を通じた交流も行っている。

また、同会には、セヌ・エ・マルヌ県の日仏交流コーディネーターとして派遣され、10月3日に到着した大渕みどりさんも参加され、県人会の会員との交流を図った。

4. 渡航日程

日 時	日 程	宿泊地
10月4日（火）	関空発 パリ着／パリ発、トゥール着	トゥール泊
10月5日（水）	第5回日仏自治体交流会議（全体会、分科会、交流会） アヴェロン県との交流協議 アンドル・エ・ロワール県との交流協議	トゥール泊
10月6日（木）	第5回日仏自治体交流会議（最終宣言） 神戸日仏協会・サンシール・シュール・ロワール日 友好協会の友好提携調印式 日仏協会関係者等との交流	パリ泊
10月7日（金）	エアバス・ヘリコプターズ社工場視察 フランス柔道連盟との面談 セヌ・エ・マルヌ県との交流協議	パリ泊
10月8日（土）	兵庫県パリ事務所訪問 モンマルトルの丘ワイン祭への参加 パリ近郊柔道場視察 在仏兵庫県人会会員との交流	パリ泊
10月9日（日）	パリ発	機中泊
10月10日（月・祝）	関空着	

（問い合わせ先）

産業労働部国際局国際交流課交流企画班

TEL：078-362-3026